

2024年3月期 決算説明会 Q&A

●第1回：2024年5月10日（Q1～Q12）

●第2回：2024年6月4日（Q13～Q15）

第1回 2024年5月10日（Q1～Q12）		
Q1	SPE	中国市場動向について、1月の説明では投資は引き続き堅いという説明だったが、現状でも見通しは変わらない？
A1		中国向け売上比率は今期（FY2025/03）上期で49%という予想。後半で少しは落ち着いてくると考えるが、現状の引き合いや受注状況からみて、今期も比率は高いだろう。
Q2	全社	新中期経営計画（Value Up Further 2026、以降「中計」）目標値について、それぞれの目標値に対し、現状の水準からさらに上がっていくには何がドライバーとなるか？
A2		<ul style="list-style-type: none"> ・売上についてはSPEがけん引するだろう。新中計期間中のWFEはCAGR（年平均成長率）5.3%と想定。それをベースに、われわれが今取り組んでいることへの成果が一定量プラスされると想定。 ・（SPEの）営業利益率は23%台を起点として、新中計期間中に25%へ持ち上げていく。
Q3	SPE	WFE見通しについて、前回の見通しから変わった背景は？
A3		<ul style="list-style-type: none"> ・CY2023のWFEがあまり落ち込まなかったことが見直し変更の背景。その変更を受け、CY2024のWFEは4%程度の成長とみている。 ・全体的な投資モメンタムの強さは3カ月前とあまり変わっていないが、パワーデバイスの調整局面入りやファウンドリーの先端投資加速などの入り繰りはある。
Q4	SPE	新中計期間中のキャパシティアップのターゲットはあるか？
A4		<ul style="list-style-type: none"> ・S³-5がフル稼働すると年間売上5,000億円のキャパ（生産能力）となる。新中計期間中はこれら現有施設（S³-1～5）の生産技術力向上や自動化推進を進めることで、（新棟を増設することなく）キャパを1～2割上げたい。 ・現在彦根で建設中の新棟については、水素関連事業向け設備であり、SPEの事務所機能も備えるが、（SPEの）キャパアップには寄与しない。
Q5	SPE	新中計の売上目標は、WFEの伸びと洗浄TAM増加の考え方をベースにしているのか？
A5		微細化に伴う洗浄のTAM増加、アドバンストパッケージエリアの洗浄機会をキャッチすることを加味した上での数値目標である。具体的な数値は、今後、IRダイなどで紹介したい。
Q6	SPE	CY2023のマーケットシェア状況は？
A6		ドル換算ベースの第三者機関マーケットシェアデータは、円安によって円ベース売上がディスカウントされてしまう部分がある。ドル建てでのCY2022からCY2023のマーケットシェアに変化はないとの認識。5月末にはデータ分析を終えたい。
Q7	SPE	今期（FY2025/03）の営業利益率目標23%台（前期比横ばい）の背景は？
A7		顧客への製品付加価値訴求のため、今期は開発や人財などへの戦略投資を早めに行っていく。この23%が最終目標ではなく、来期、再来期とさらに上げていくつもりである。

Q8	SPE	米国の輸出規制に起因する中国からのラッシュオーダーに関する見方は？また一部キャンセル発生などの情報があるか？
A8		<ul style="list-style-type: none"> ・弊社は昨年7月に発布された日本政府のリスト規制に従ってビジネスをしている。今後の見通しについてコメントする立場にはないが、動向は注意深くモニターしていきたい。 ・われわれは生産着手直前で受注計上し、顧客との納期整合を実施しており、現状キャンセルなどは発生していない。
Q9	SPE	新中計の営業利益率目標が（市場の）期待よりも低い印象だが、これで良しとしている背景は？
A9		良しとしているわけではなく、この中計期間中の戦略投資を経てさらに上を目指していく。競合を上回るような製品付加価値を生むための施策を戦略的に進める期間とご理解いただきたい。
Q10	SPE	今期（FY2025/03）下期やCY2025に向けて、アプリケーション別、地域別売上の方向感は何？
A10		中国売上は下期も依然強いイメージ。ただし DRAM 投資増や、ファウンドリーの先端投資前倒しもあり、全体的な様相は変わるかもしれない。1Q、2Q の受注状況を通して今後アップデートしていく。
Q11	全社	新中計の M&A などの戦略投資がターゲットとする領域は？もし適当な M&A 案件がなかった場合、その分は株主還元へと充当されるのか？
A11		<ul style="list-style-type: none"> ・M&A については、経営大綱の中で述べられている4つの注力エリア（DX、GX、Humanics、Mobility）と、SPE を含む既存の事業エリアがその候補になる。 ・株主還元についてはそのご理解で結構。
Q12	全社	<ul style="list-style-type: none"> ・固定費が今期（FY2025/03）は 220 億円増加すること。その中味と、翌期（FY2026/03）以降の固定費配分は？ ・新中計の設備投資 3 年間累計 1,000 億円の内容は？ ・新中計の ROIC 目標 15% は、前中計の 15.9% より水準が下がる。これが回復してくるタイミングは？
A12		<ul style="list-style-type: none"> ・固定費の 220 億円増は、SPE を中心とするキャパシティアップに伴う人件費、償却費、研究開発費増が要因。 ・新中計期間中の成長投資は、SPE における研究開発体制・設備の拡充が中心。彦根に代わるロケーションも視野に検討している。 ・ROIC の回復フェーズは、2028 年 3 月期から始まる次の中計となると想定。（本回答は質疑応答後追加）
第2回 2024年6月4日（Q13～Q15）		
Q13	GA	今期、売上は微増予想にも関わらず減益となるのはなぜ？
A13		8年振りの展示会（drupa）などでコスト高を想定している。また前期は為替影響が追い風だったのに対して、今期は押し下げ要因になる想定。
Q14	FT	今期、来期の見通しは？
A14		今期、黒字転換を見込んでいる。売上は LCD 向けがメインの見通し。一方、足元では OLED 向け受注が増えており、来期の売上に貢献しよう。
Q15	PE	今期の見通しは？
A15		上期は、受注も静かな状況が続くも、下期には基板向け投資増に伴う受注回復を想定。

HD: ホールディングス、SPE: 半導体製造装置事業、GA: グラフィックアーツ機器事業、
FT: ディスプレー製造装置および成膜装置事業、PE: プリント基板関連機器事業

以上